

## 地域金融機関における競争激化と金融の安定性

日本銀行 尾島 麻由実

本稿は、人口減少などを背景に厳しい競争環境に直面している日本の地域金融機関を対象に、競争激化が金融機関の経営安定度にどのような影響を与えるか分析したものである。地域金融機関のマークアップは過去 30 年間ほぼ一貫して縮小している。こうした競争激化が金融機関の経営安定度に及ぼす影響をみると、1990 年代前半までは、競争による貸出金利の低下が借り手の破綻リスクの低下をもたらす経路などを通して、銀行経営の安定化に寄与していたことが確認できる。しかし、その後も継続した競争激化は、金融機関の利鞘縮小圧力を強め、銀行経営の安定性をむしろ低下させる方向に寄与してきた。この間、地域金融機関数は、バブル崩壊を経て、破綻や合併により大幅に減少した。破綻や合併によって市場から退出した金融機関の行動をみると、競争環境が激化していく中で、リスクテイクの積極化により一時的に利益を嵩上げし、その後、過去のリスクテイクが裏目となり経営が不安定化していった傾向がより顕著に確認される。